



“私の挑戦”

ビジネスプラン誕生の裏側

受賞企業紹介

第5回 チャレンジ部門 グランプリ 受賞

封筒の「困った」を解決！ 独自技術で御社の理想を形にします

プラン名
環境にやさしい紙製品の
開発と製品化



代表取締役
山中 浩史

有限会社山中紙工所

京都市南区西九条仏現寺町2-7

TEL 075-682-7071

http://www.yamanaka-shikosho.com/

プロフィール

京都生まれ。関東の大学で情報系のシステム工学を専攻。卒業後は、大手印刷会社で経験を積み、2003年に家業の有限会社山中紙工所に入社。現場で紙加工技術の研鑽を積み、2017年に代表取締役役に就任。近年は環境負荷低減のニーズに応えるべく、これまでの知見と自社の機械を最大限に活かし、他社には真似できない紙袋の製品開発に注力している。

山中紙工所は約80年にわたり、紙袋や手提げ袋の製造に携わってきました。三代目社長として2017年に就任した私は、商工会議所の青年部での交流や勉強会を通して「知恵ビジネス」に強い関心を抱くようになりました。40代は新たな挑戦の連続と心に決め、まず着手したのは、大学時代に培ったプログラミング技術を活かしたWEB受発注システムの構築でした。さらに、このシステムを基盤に、他社にはないニッチでオリジナリティ溢れる製品開発に約4年間注力しました。その結果、封筒型の紙袋に小判型の持ち手用穴を付けた「プラストッテ™」、A4サイズの紙ファイル、CDディスクや金券等がスムーズに取り出せる「サットレル封筒™」等を開発しました。特にプラストッテ™の持ち手裏補強の機械化を実現する等、既存設備の改良・活用による技術革新に常に挑戦しています。環境問題への意識の高まりや脱プラスチック、レジ袋有料化の流れを受け、多くのお客様からお問い合わせをいただいています。

現在、製造業の多くが、素材高騰や人材確保の難しさに直面しています。

加えて、製袋機メーカーが日本で数社しかないという厳しい現実もあります。しかし、当社は古い機械も積極的に導入し、独自の改造を加えることで新たな製品開発へとつなげています。

「切る・抜く・折る・貼る」といった多様な加工技術こそ、お客様の幅広いニーズに応える当社の強みです。この技術の可能性をさらに広げ、「封筒・手提げ袋で困ったら山中紙工所」と頼っていただけるよう、お客様のどんなオーダーにも「できない」とは言わず、共に問題解決を図る提案力を強化していきます。これからは、お客様の「困った」を解決するパートナーとして、新たな挑戦を続けてまいります。

ビジネスプランの詳細はこちら



京商の支援

京都商工会議所の販路開拓支援事業で、展示会出展や企業とのマッチングによる、商談機会を創出。同社の優れた技術力やお客様対応力を広く発信し、販路拡大につながるよう支援します。